

第7回 八重山医療圏がん医療連携協議会 議事要旨

日 時：平成29年2月22日（水） 14時～16時

場 所：沖縄県立八重山病院 2階 第1会議室

テーマ：八重山医療圏におけるがん医療をみんなで一緒に考えよう

出席者：沖縄県立八重山病院 院長 依光 たみ枝
沖縄県立八重山病院 看護部長 渡口 直子
沖縄県立八重山病院 副看護部長 中山 幸子
沖縄県立八重山病院 地域連携室師長 宮良 久美江
沖縄県立八重山病院 地域連携室副師長 平良 芳子
沖縄県立八重山病院 地域連携室 伊良皆 香代
沖縄県立八重山病院 化学療法認定看護師 内田 千穂
沖縄県立八重山病院 医事課 主任 金城 香澄
沖縄県立八重山病院 総務課 課長 金城 敏彦

石垣市健康福祉センター 所長 具志堅 智
石垣市健康福祉センター 所長補佐兼係長 東浜 妃敏

八重山のがん患者を支援する・やいまゆんたく会 会長 新城 純
八重山のがん患者を支援する・やいまゆんたく会 副会長 田盛 亜紀子
八重山のがん患者を支援する・やいまゆんたく会 事務局 宮國 惠慈
八重山のがん患者を支援する・やいまゆんたく会 会員 大浜 圭子

琉球大学医学部附属病院がんセンター センター長 増田 昌人
琉球大学医学部附属病院がんセンター 事務補佐員 又吉 未央

協議会の様子：



1. 開会のご挨拶

・琉球大学医学部附属病院 がんセンター長 増田 昌人
議事次第、資料集を確認の後、以降は増田より議事進行が行なわれた。

2. 八重山医療圏がん医療連携協議会 委嘱状交付

委任状の交付は、時間の都合により事前に机上に配布された。

3. 報告事項

(1) 第6回八重山医療圏がん医療連携協議会議事要旨報告【資料1】

・琉球大学医学部附属病院 がんセンター長 増田 昌人
前回の議事要旨が報告された。

(2) 第6回協議会から本日までのがんに関する取り組みについて

がんに関する取り組みについて、各団体の代表者より下記の報告があった。

<県立八重山病院>

- ・沖縄県立八重山病院 院長 依光 たみ枝
- ・沖縄県立八重山病院 看護部長 渡口 直子
- ・沖縄県立八重山病院 地域連携室副師長 平良 芳子

専門性の高い看護実践に向けた取り組みについて、依光院長と渡口看護部長から報告があった。金城看護師が緩和ケア研修会等に参加したほか、看護師 1 名が緩和ケア認定看護師教育課程を終える予定で、受験を控えている。

緩和ケアの取り組みについて、平良副師長から報告があった。月 1 開催の「緩和ケア委員会」では、9 月から苦痛のスクリーニングに取り組み、11 月に実施フローが完成した。現在、小児科と耳鼻科を除く全科で、外来看護師がスクリーニングを実施している。がんを患っている人の身体的・社会的・心理的苦痛を、チェックリストを用いて確認し、該当する患者がいた場合は外来看護師から連絡を受け、相談対応を行っている。また相談員は、内容に応じてワーカーや認定看護師など各専門につなぐ役割も担っている。

「がん診療カンファレンス」は月 1 開催である。3/6 には当院、中部病院、宮古病院の 3 施設での合同カンファレンスを予定している。

<やいまゆんたく会>

- ・八重山のがん患者を支援する・やいまゆんたく会 副会長 田盛 亜紀子

やいまゆんたく会の活動内容について、田盛副会長から報告があった。主な活動として、12/3 石垣市健康福祉まつりと同日開催で「第4回がんフォーラム in 石垣」を開催した。講師として沖縄病院の川崎医師を招き、130 人もの参加があった。12/18 介護施設の誕生日会に呼ばれ、ハーモニカ演奏を行った。1/20 にも同様のハーモニカ演奏を別施設で行っている。本件については、今後も要請に応じていきたい。1/21 「図書館でまるごと「一日」がんのこと」の参加呼びかけをした。3 月は定例会にて、次年度の計画を立てる予定である。

<石垣市市民保健部健康福祉センター>

・石垣市健康福祉センター 所長 具志堅 智

難病患者等に係る渡航費助成の状況について、具志堅所長から報告があった。今年度は前年を上回る申請があるため、3月補正で対処する。今年度の、1月末現在の申請件数は176件で、申請内訳は悪性新生物疾患124件、特定疾患20件、小児慢性特定疾患32件である。助成人数は悪性新生物疾患75人、特定疾患16人、小児慢性特定疾患19人の計110人であり、うち新規助成者は悪性新生物疾患29人、特定疾患1人、小児慢性特定疾患6人の計36人であった。助成申請が増えたことは、制度周知が進んでいると認識している。

また次年度に、県が助成事業を実施する市町村を対象に1/2補助をする件については、石垣市では特定不妊治療の渡航費助成に充てる計画である。

<琉球大学医学部附属病院がんセンター> 【資料2】 【資料3】

・琉球大学医学部附属病院がんセンター センター長 増田 昌人

2月公開で「沖縄県 がん患者さんのための療養場所ガイド」のホームページを開設した。1/21「図書館でまるごと「一日」がんのこと」を石垣市立図書館で実施した。講演会では八重山病院の玉城副院長らを招き、77人の参加があった。さらに今後の予定だが、おきなわがん情報ネット「みるん・しるん」の公開にあわせ、3/18 ホテルみやひらにて「がん情報のさがしかた勉強会 in 石垣市」と題したイベントを開催する。

4. 審議事項

(1) 平成28年度八重山医療圏がん医療連携協議会 振り返り 【資料4】

・琉球大学医学部附属病院 がんセンター長 増田 昌人

平成28年度の協議事項、要望事項を1項目ずつ整理し、次年度以降の取り扱いについて協議した。これにより全14項目中、7項目は協議を終了、7項目は継続審議となった。

各項目の仕分けは下記のとおりである。カッコ内は当日配布資料の項目分類と番号。補足が必要な項目には注釈(*)をつけた。

<協議結果>

【改善等が見られ、協議を終了する議題】

・がんと共に他の疾患を抱えた患者のための医療連携について、患者・かかりつけ医・主治医の三者が、必要に応じて意見交換できる場が必要ではないか。本協議会に八重山地区医師会の医師に参加していただきたい (No. 1-連携)

*本件に関連し、依光院長から本協議会の開催時間変更の提案があった。第3木曜日に院内で開催している地域医療カンファレンスに合わせれば、より開業医の参加が見込めることが理由である。出席者に確認したところ賛同が得られたため、次年度に向け事務局にて調整をはかる。なお議会開催月は、今年度同様に外す配慮を行う。

・島外で手術・治療を受けた患者の退院後の定期検査、治療(抗がん剤・放射線)を地元で受診できる体制を確立して欲しい (No. 4-その他)

- ・患者は医師に対して、セカンドオピニオンの受診を言い出しにくい。病院としてセカンドオピニオンをとることを積極的に推奨してほしい (No. 5-その他)

＊医師に話すことをタブー視する患者心理も依然あるが、だいぶ浸透しつつある。医師に言い出しにくい場合はスクリーニングのチェックリスト活用や、相談員や看護師に伝えてほしい。

- ・呼吸器内科医・腫瘍内科医の配置について (No. 10-人員配置)

＊No. 3-人員配置に集約

- ・経済的困窮者の支援体制の構築について (No. 11-患者支援)

＊竹富町・与那国町の支援状況については事務局預かり

- ・八重山医療圏がん医療連携協議会実施要項の制定について (No. 12-その他)

- ・もしも島でがんになったら in 石垣島 開催協力をお願い (No. 14-連携)

【次年度も継続審議が必要な議題】

- ・八重山病院の勤務医師の専門分野等について、市民へ広報で紹介してほしい (No. 2-情報提供)

＊患者会の要望は、院内に医師の経歴や顔写真を掲示することである。個人情報のみ示について医師側に賛否ある。匿名で専門性のみ示すことが解決策か。

- ・新病院開設後は、地元で充実したがん治療が受けられるよう部位別の診療科と専門医師を配置してほしい (No. 3-人員配置)

＊どの診療科の専門医師が最優先で必要か。

- ・助成制度の対象拡大を検討してほしい (No. 6-渡航費助成)

＊石垣市で放射線治療はできない。放射線治療の場合は助成回数増、または全額負担を検討してほしい。

- ・宿泊支援制度は予約が取りにくいいため、病院周辺に宿泊施設がほしい (No. 7-その他)

- ・病状等説明時は紙に書いて渡してほしい (No. 8-情報提供)

＊病気を理解するため、正しい病名とステージを紙に書いてもらうことは重要。本要望は、院内の医局会で医師に伝える。

＊本件に関連し、内田化学療法認定看護師から発言があった。現在、病状告知後・再発告知後・治療方針変更の際に介入し、精神的ケアと同時に、医師の説明等が理解できたか聞き取りを実施している。告知の動揺から医師の言葉が耳に入らないケースはめずらしくない。その場合は再度医師につなぐなど、必要に応じた対応をしている。

- ・患者会に入会するまで渡航費助成制度を知らなかった、広く市民に広報してほしい (No. 9-情報提供)

- ・ファミリーハウス設置等、宿泊支援に関する提案について (No. 13-宿泊支援)

5. 閉会のご挨拶 <3分>

・沖縄県立八重山病院 院長 依光 たみ枝先生

すべての議事を終え、閉会となった。

第8回 宮古医療圏がん医療連携協議会 議事要旨

日 時：平成29年2月20日（月） 14時～16時

場 所：沖縄県立宮古病院 3階 講堂2

テーマ：宮古医療圏におけるがん医療をみんなで一緒に考えよう

出席者：沖縄県立宮古病院 院長 上原 哲夫
沖縄県立宮古病院 外科部長 松村 敏信
沖縄県立宮古病院 副院長 本村 悠子
沖縄県立宮古病院 外来救急室 認定看護師 青沼 裕美子
沖縄県立宮古病院 地域連携室室長 佐渡山 英子
沖縄県立宮古病院 地域連携室 古謝 亜希
沖縄県立宮古病院 4西病棟師長 金城 春美
沖縄県立宮古病院 総務課 事務局 大城 将志

宮古島市生活環境部 健康増進課 係長 島袋 英虎
宮古島市福祉部 障がい福祉課 係長 新里 郁子
宮古島市福祉部 障がい福祉課 与那覇 聡美

宮古保健所 総務班 班長 石川 春信
宮古保健所 総務班 主任 奥 智則
宮古保健所 健康推進班 保健師 知花 真希

離島圏におけるがん患者支援を考える会・ゆうかぎの会 会長 真栄里 隆代
離島圏におけるがん患者支援を考える会・ゆうかぎの会 会計 小路 千恵子
離島圏におけるがん患者支援を考える会・ゆうかぎの会 会計 砂川 洋子
まんま宮古 会長 深澤 麗子
日本オストミー協会 宮古支部 支部長 下地 一正

琉球大学医学部附属病院がんセンター センター長 増田 昌人
琉球大学医学部附属病院がんセンター 事務補佐員 又吉 未央

協議会の様子：



1. 開会のご挨拶

- ・琉球大学医学部附属病院 がんセンター長 増田 昌人
議事次第、資料集を確認の後、以降は増田より議事進行が行なわれた。

2. 宮古医療圏がん医療連携協議会 委嘱状交付

委員を代表して、まんま宮古の深澤麗子会長に委嘱状を交付した。

3. 報告事項

(1) 第7回宮古医療圏がん医療連携協議会議事要旨報告【資料1】

- ・琉球大学医学部附属病院 がんセンター長 増田 昌人
前回の議事要旨が報告された。

(2) 第7回協議会での宮古島市の福祉手続きに関する説明について

【資料2】【当日資料】

- ・宮古島市生活環境部 健康増進課 係長 島袋 英虎
- ・宮古島市福祉部 障がい福祉課 係長 新里 郁子

身体障害者手帳交付について、島袋係長から報告があった。身体障害者福祉法第15条の規定に基づき手帳交付しており、身体障害者更生相談所へ進達し、必要に応じて社会福祉審議会への諮問を経て答申されて手帳が送付される流れである。申請書類に不備がない場合、受理日から交付まで60日程度（行政庁45日、経由期間等15日）の時間を要し、市町村ごとの差異はない。ただし中核都市である那覇市の場合は、申請後直接社会福祉審議会を独自で行うため他市町村より早めの処理が可能だと聞いている。

続いてストーマ装具に係わる給付について、新里係長から報告があった。日常生活用具給付事業は、障害者総合支援法によって市町村事業として行われている。消化器系、尿路系ともに給付基準額を11,300円/月に設定し、6月ごとに給付している。平成27年度給付実績は、延べ690件、助成人数60名であり、事業費2,200万円のうち27%をストーマ用具が占めている。平成28年度は2月20日現在、延べ669件、助成人数62名である。本事業の認知経路は、主に病院や介護用品業者である。今回の説明要請や下地宮古支部長（日本オストミー協会）の要望を受け、行政としてもオストメイトの社会的認知度の拡大や患者会活動の紹介など、情報発信を検討したい。

(3) 第7回協議会から本日までのがんに関する取り組みについて

がんに関する取り組みについて、各団体の代表者より下記の報告があった。

<県立宮古病院>【当日資料】

- ・沖縄県立宮古病院 副院長 本村 悠子
- ・沖縄県立宮古病院 地域連携室室長 佐渡山 英子

沖縄県緩和ケア研修会実施について、本村副院長から報告があった。1/28(土)1/29(日)に「第9回 沖縄県緩和ケア研修会 2016 in 県立宮古病院」を開催した。医師17人、看護

師・栄養士・事務等 15 人、計 32 人の参加があった。ゆうかぎの会 川満副会長が、患者が抱える苦痛について「患者の立場から」と題した体験講話を行い、その内容について参加者が意見交換した。

院内がんサロンの参加状況について、佐渡山地域連携室長から報告があった。「宮古うむやす会」は平成 28 年 4 月～平成 29 年 2 月までに 5 回開催し、院内患者 4 人、院外患者 3 人 計 7 人の参加があった。スタッフは看護師 5 人、相談員 5 人、ピアサポーター 6 人 計 23 人であった。

<宮古保健所>【資料 3】

・宮古保健所 健康推進班 保健師 知花 真希

「平成 28 年度市区町村におけるがん検診チェックリストの使用に関する実態調査」について、知花保健師より報告があった。実施主体の国立がん研究センターが、がん検診実施体制を把握するため、市区町村を対象に行っている調査である。調査結果は平成 29 年 3 月頃にホームページ「自治体のためのがん検診精密管理支援のページ」に掲載予定である。

<宮古島市生活環境部 健康増進課>

・宮古島市生活環境部 健康増進課 係長 島袋 英虎

がん検診に係わる取り組みについて、島袋係長から報告があった。広報誌や新聞を活用し継続的な広報を行っているが、依然として受診率は低い。大腸がんを例に挙げると、要精密検査と診断された場合の受診率は、平成 27 年度で 9.6%である。受診を促す取り組みとして、電話による呼びかけ（コール・リコール）を実施している。

<ゆうかぎの会>【当日資料】

・離島圏におけるがん患者支援を考える会・ゆうかぎの会 会長 真栄里 隆代

宮古病院の花壇づくり「みんなで花を咲かせるプロジェクト」について、真栄里会長から報告があった。12/7 に各団体と病院職員が参加し、苗 1,500 本を植え付けた。

<日本オストミー協会>【当日資料】

・日本オストミー協会 宮古支部 支部長 下地 一正

オストミーに係わる勉強会実施について、下地宮古支部長から報告があった。12/2 宮古病院にて勉強会を 3 年ぶりに実施した。今後も病院職員の協力のもと、継続開催をしたい。

<まんま宮古>【当日資料】

・まんま宮古 会長 深澤 麗子

今年で 5 年目の活動となる「タオル帽子と元気を届けるプロジェクト」について、深澤会長から報告があった。『化学療法を乗り越えるエールとなるように』との願いが込め、宮古総合実業高校福祉科ボランティア部と各団体がタオル帽子 56 個を制作し、宮古病院の入院患者に贈った。

<琉球大学医学部附属病院がんセンター>

・琉球大学医学部附属病院がんセンター センター長 増田 昌人

当センターの取り組みについて、増田センター長から報告があった。2/11 沖縄県立博物館・美術館にて「地域相談支援フォーラム in 沖縄」を開催した。2月公開で「沖縄県がん患者さんのための療養場所ガイド」のホームページを開設した。さらに今後の予定だが、おきなわがん情報ネット「みるん・しるん」の公開にあわせ、3/11 宮古病院にて「がん情報のさがしかた勉強会 in 宮古島市」と題したイベントを開催する。

4. 審議事項

(1) 宮古島市での医療関係会議への患者団体の参加について【資料4】

・離島圏におけるがん患者支援を考える会・ゆうかぎの会 副会長 川満 敏次

川満副会長が欠席のため、真栄里会長が代理発表した。要望に至った状況ならびに実施により期待される効果は下記のとおりである。

1. 要望に至った状況

宮古島でも宮古病院や保健所など沖縄県が主催する医療会議、あるいは宮古島市でも同様な会議があると思うが、これらの会議に難病・がん患者など医療施設を利用している患者団体の代表を参加させていただきたい。

例えば宮古保健所では圏域の医療体制を検討協議する会議があり、利用者側の代表として婦人科会、老人クラブの代表が参加しているが、このなかに患者団体も参加させていただきたい。

2. 実施により期待される効果

圏内の医療施設の受診でも掛け持ちがある現状、島外の病院でしか治療できない現状を患者が直に発信することにより、関係者に地域医療の現状をわかってもらう。

行政側の積極的な呼びかけにもかかわらず、住民検診、がん検診などの受診率が極めて低い。患者会のメンバーでも住民検診で病気を発見した人は多く、ほとんどから「早く検診に行けば良かった」との反省の声が聞こえている。

検診で病気を見つけた経験者からその必要性、重要性を訴えて住民の健康・検診に対する意識の高揚につなげる。

<状況>

要望を受け、宮古保健所 総務班 奥主任から発言があった。「宮古地区保健医療協議会」は五疾病五事業について圏域関係者の意見を把握し、保健医療体制の確立と充実をはかることを目的に設置された。現在は婦人連合会、老人クラブが一般住民の代表として参加している。もし、がん患者団体が参加することになれば、他疾病の団体についても同様の対応が必要となる。委員数に定めがあり協議時間も限られているため参加は難しい、と述べた。

宮古保健所 健康推進班 知花保健師から発言があった。『経験者の立場から検診の必要性を訴えたい』という点については、当所主催の研修会に体験講話を設け、地域住民に伝えることも可能だ。患者会の協力を得られるのであれば企画の際に相談したい、と述べた。これを受け、まんま宮古 深澤会長は「昨年の講演会での体験講話では、参加者から『患者の気持ちというのは聞いてみないとわからないものだ』という声があった。患者会も積極的に協力したい」と述べた。

<協議結果>

- ・該当協議会は五疾病が対象のため、がん患者団体のみ参加することは難しい。【宮古保健所】
- ・当事者の意見は聴くに値する。委員が無理なら、オブザーバー参加を検討してほしい。【増田⇒宮古保健所】
- ・健康推進班主催の研修会で体験講話の時間を設けることを検討する。【宮古保健所】
- ・体験講話の派遣要請があれば、協力をする。【患者会】
- ・宮古島市主催の医療関係会議があるか、確認してほしい。【増田⇒宮古島市】

(2) 災害時におけるストーマ装具の備蓄について

- ・日本オストミー協会 宮古支部 支部長 下地 一正

事項(1)の審議中に下地支部長から寄せられた要望である。(1)とは内容が異なるため、事項(2)として記す。

<状況>

下地支部長から発言があった。災害時におけるストーマ装具の備蓄だが、宮古島市で対策を講じているか知りたい。

宮古島市生活環境部 健康増進課 島袋係長から発言があった。本件は持ち帰り確認する。

がんセンター増田から発言があった。オストミー協会本部に、本件に関連する省庁を確認してはどうか。省庁が判明すれば、県や市町村の担当部署がわかるのではないかと。

<協議結果>

- ・本件は持ち帰り確認する。【宮古島市】
- ・本件の関連省庁をオストミー協会本部に確認してはどうか。【増田⇒患者会】

(3) 宮古島市難病患者等に係わる航空運賃助成について<20分>【資料5】

- ・離島圏におけるがん患者支援を考える会・ゆうかぎの会 会長 真栄里 隆代

真栄里会長が発表した。要望に至った状況ならびに実施により期待される効果は下記のとおりである。

1. 要望に至った状況

4月から県が2,300万円の予算を確保し、渡航費支援を行っている市町村に対し1/2補助を行うと報道があった。子宮けいがんワクチン副反応被害の方も含まれるそうだ。本件について情報共有し、多くの人が制度を知り活用できるようにしてほしい。

宮古島市は予算が増える分、同行者助成の規制緩和や、現在、年2回までの回数制限を3回、4回と増やすなど、いま一度制度の見直しをお願いしたい。

<状況>

宮古島市生活環境部 健康増進課 島袋係長から発言があった。本件は平成29年度予算案に係わるものだが、予算額に対し、有人離島を抱える市町村からの要望が上回った。そのため宮古島市は再調整の上、改めて予算要求を行う。本件の予算内示は3月の予定である。宮古島市の渡航費支援に係わる次年度予算は200万円。市の要項では、同行者助成の該当者を「要介護」と定めているが、4月以降は県の要項に合わせ「要支援」に変更する。また通院等に係わる経済的負担の軽減策としては宿泊費助成も挙げられるが、市では渡航費助成の支援拡充を先行し、進めていく方針である。

<協議結果>

- ・本件については改めて予算要求を行い、3月に予算内示の予定である。【宮古島市】
- ・市の予算額は減額しない。県の補助を上積み、渡航費支援の拡充をはかる。【宮古島市】

(4) 平成28年度宮古医療圏がん医療連携協議会 振り返り【資料6】

・琉球大学医学部附属病院 がんセンター長 増田 昌人

平成28年度の協議事項、要望事項を1項目ずつ整理し、次年度以降の取り扱いについて協議した。これにより全25項目中、19項目は協議を終了、6項目は継続審議となった。また本日の審議事項(1)-(3)の3項目についても継続審議とする。

各項目の仕分けは下記のとおりである。カッコ内は当日配布資料の項目分類と番号。補足が必要な項目には注釈(*)をつけた。

<協議結果>

【改善等が見られ、協議を終了する議題】

- ・患者本人が要介護でなくても付き添い人を助成の対象にしてほしい (No. 1-渡航費助成)
 - *No. 19-渡航費助成に集約
- ・血液専門外来の設置と専門医師を配置してほしい (No. 2-人員配置)
 - *No. 18-渡航費助成に集約
- ・島内に診療科がなく島外へ通院する場合の制度適用を検討してほしい (No. 3-宿泊支援)
- ・宮古島・石垣島にも病院近隣に安価で宿泊できるファミリーハウスのような施設がほしいとの要望があった (No. 4-宿泊支援)
 - *本件はがんセンター預かりとし、次年度関係者に確認をする。
- ・手術の付き添いについても制度適用をぜひ検討してほしい (No. 5-宿泊支援)

- ・患者会が活動できる場所を確保したい。現在病院側は無償で提供できる部屋はないので、当面は他施設も視野に入れて検討した方がよい (No. 6-施設)
- ・宮古病院にて皮膚排泄ケアの認定看護師によるストーマケアの勉強会をしてもらいたい (No. 7-講演会勉強会)
- ・宮古病院にて、緩和ケア、疼痛緩和ケア、化学療法、放射線療法、乳がん看護の認定看護師の患者向けの話を知りたい (No. 8-講演会勉強会)
- ・患者会が正しい知識を持ってピアサポートが出来るように基本的なピアサポーター研修会を行ってほしい (No. 9-講演会勉強会)
- ・宮古島市との講演会は現在宮古テレビで何度か再放送されている。待合いの時間に DVD を流してほしい (No. 10-講演会勉強会)
- ・本島で出来る治療を離島でもできるように努力してほしい (No. 11-その他)
- ・宮古島に緩和ケア病棟をつくってほしい (No. 12-その他)
- ・島内における在宅医療の状況ならびに家庭医療センターの地域連携について (No. 14-その他)
 - *宮古地区医師会会長出席の際は、No. 12・No. 14 に関する見解を伺う
- ・患者さんの気持ちが和むように花壇に花を植えたい (No. 13-その他)
- ・3/5 食道発声訓練 講演会への参加協力依頼 (No. 17-講演会勉強会)
 - *No. 16-患者支援に集約
- ・オープンホスピタルへの患者会参加 (No. 21-ゆんたく会・院内行事)
- ・宮古医療圏がん医療連携協議会実施要綱の制定 (No. 22-その他)
- ・日本オストミー協会講演会 開催協力をお願いに関連して (No. 23-講演会勉強会)
- ・ルミナリエ宮古島 開催協力をお願い (No. 25-連携)

【次年度も継続審議が必要な議題】

- ・病床数削減で想定されるがん患者さんへの影響と対策について (No. 15-その他)
 - *本件「削減」の表現に対し、宮古保健所から病床数は推計に基づくものとの見解が示され、地域医療構想は素案を取りまとめた段階との報告があった。
- ・喉頭摘出患者の言語訓練に関する患者支援の取り組みについて (No. 16-患者支援)
 - *本件について宮古島市は持ち帰り確認する。
- ・血液専門外来の診療体制について (No. 18-人員配置)
 - *人事等で体制変更があった際には、本協議会にて報告をする。
- ・宮古島市難病患者等に係わる航空運賃助成について (No. 19-渡航費助成)
- ・がん検診向上への取り組み要望について (No. 20-連携)
- ・オストメイトをサポートする福祉制度について (No. 24-患者支援)

5. 閉会のご挨拶 <3分>

- ・沖縄県立宮古病院 院長 上原 哲夫先生
- すべての議事を終え、閉会となった。